

3.教会で行う子ども食堂 マンナ MANNNA 子ども食堂

川添由貴

1.始めたきっかけと母体

2016年5月ごろにテレビを見て子ども食堂の存在を知った。教会には場所と道具があるので自分たちにもできると思った。持っている資源やノウハウを地域で活かしたいと思い活動を始めた。開催すると決めてから、9、10月にわいわい子ども食堂とガンダム子ども食堂に見学に行った。わいわい子ども食堂を見て、部屋の作りが似ていると感じ、自分たちにもできるという思いが強まった。名古屋グレイスキリスト教会がある地域には小中高すべてがあり、子ども食堂を開くには最高の場所。西区の周りに生活困難者がいるのかは分からないし知らない。MOZOの周辺に住んでいる人々はとてもお金に困っているようには見えない。そのため、貧困対策については考えていなかった。孤食の話はよく聞いていた。生活のレベルをキープするために収入を上げようと働き、そのため共働きの世帯が多く、子どもと一緒に食事をする事ができていないのではないかと活動を始めてから思うようになった。教会が地域で自由に使える場所（家、学校に次ぐ第3の場所）になればいいと考えている。

〈母体〉名古屋グレイスキリスト教会が運営

2.これまでの開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

2017/1/25（初回）唐揚げ、ご飯、豚汁、お野菜

4/19 煮込みハンバーグ、ご飯、クラムチャウダー、ブロッコリーのサラダ、キウイ

5/24 麻婆豆腐、コーンスープ、杏仁豆腐

6/21 夏野菜のカレーライス、サラダ、ゼリー

8/23 夏祭りメニュー

9/20 鮭チラシ寿司、鶏の甘辛煮、お吸い物、愛媛ポンジュース

10/25 チキンライス、クラムチャウダー、サラダ

11/22 ビビンバ、わかめスープ、ヨーグルト

3.参加者

6月には記者2名、8月には河村市長が参加。

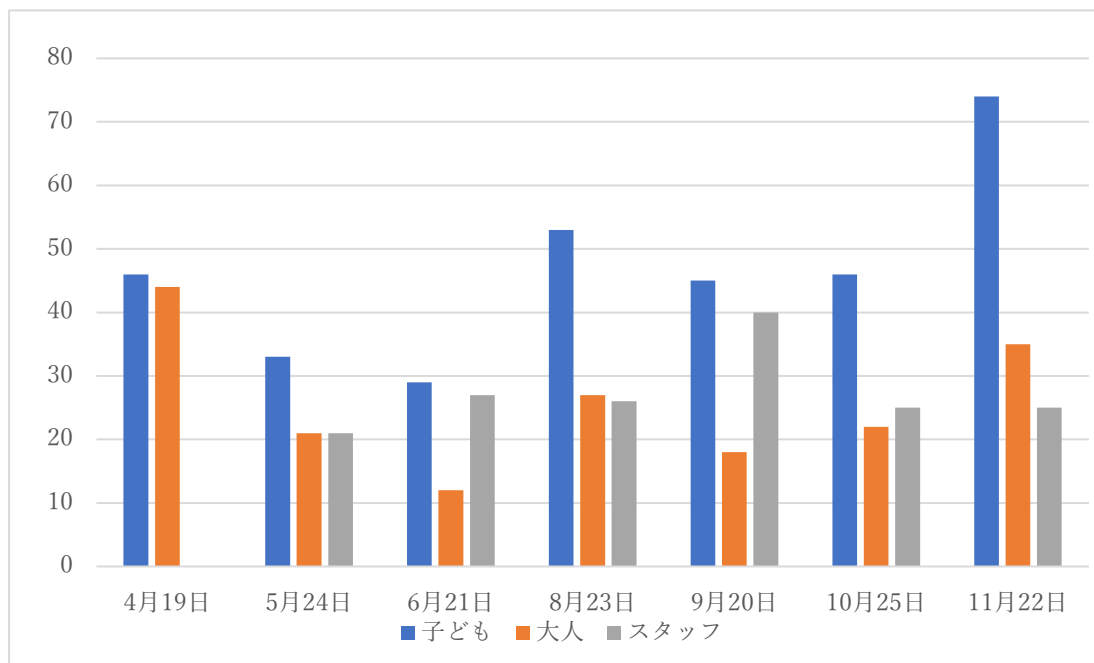


図1 参加者数

4.参加者（親子、大人、ボランティア）の主な居住地、地区

西区山田学区、中小田井地区、比良、山田小学校、中小田井小学校、山田中学校、山田高等学校、中京大学、西保健所生活環境課、社会福祉協議会、西警察署生活安全課、セカンドハーベスト

5.抱えている課題

様々な人が集まるために、色々な意見や価値観があるので、統一する必要がある、そうでないと混乱が生じてしまうということ。特に、衛生や事故に関しては、そのように思う。

6.その課題を解決するために行っている取り組み（子ども食堂を継続するための工夫）

- ・ 混乱を防ぐためにも、マンナは年間3,050円の保険に加入した。大同火災海上保険のもので、食中毒や事故が保障される。
- ・ 子ども食堂開催後にミーティングを行うという取り組み。
- ・ 継続するための工夫としては、近くの小学校でチラシ配りをしたり、Facebookなどで写真をアップして雰囲気や伝えたり、開催日時や食事メニューなどを公開している。

7.子ども食堂を支える関係者マップ（つながりマップ）

